



平清盛 (大臣影)



後白河天皇 (天皇御影)

29 天子撰関御影(天皇・撰関・大臣影) 藤原為信・豪信

四卷(三の丸尚蔵館)

鎌倉(南北朝時代(十四世紀))

紙本着色

(天皇卷) 本紙二九・〇×五三・五・三、付属卷 本紙二九・一×四六・七

(撰関卷) 本紙二九・五×八七・〇・〇

(大臣卷) 本紙二九・六×一七八・〇・七

平安時代末から鎌倉時代の天皇、撰関、大臣影を集成した絵巻で、似絵の時代を象徴する作品として知られる。近年の修理の際、天皇巻の第三紙目の今上天皇(後光厳天皇)については、紙質やその状況等から、明らかに別に制作されて所在していたものが、後世、何らかの理由で挿入されたものであることが判明したことから、この一紙は、この度の修理を機会に別巻に仕立てて天皇御影巻の付属巻とし、天皇御影巻は当初の配列順に戻した。各巻とも巻首の一人目はやや右向きに坐し、以下はそれに対してやや左向きに坐す姿で描かれ、一部の乱れを除いて在位、着任順に配列されており、各人それぞれに墨書で人名が注記されている。

天皇影は、嘉承二年(一一〇七)御即位の第七十四代鳥羽天皇に始まり、途中四人の天皇を除き、また太上天皇を追号された後高倉院を加えて、文保二年(一一三二)御即位の第九十六代後醍醐天皇までの二十人が描かれている。これに、別巻とした北朝第四代・後光厳天皇が加わる。撰関影は、鳥羽天皇の関白となった法住寺関白・藤原忠通から、後鳥羽天皇の関白となった後円光院関白・鷹司冬教までの三十人(冬教の直前に近衛経忠を欠く)。大臣影は保安三年(一一三二)に右大臣となった藤原家忠から元亨二年(一一三二)に右大臣となった今出川兼季までの八十人(撰関に就いた者と二人の欠落等を除く)が描かれている。奥書によれば天皇御影巻の十八人目、後一条天皇までは、藤原為信(二四八〜三二六)以前の筆、残る二人の天皇御影と撰関影、大臣影をその子・豪信の筆という。また、人名の注記は、天皇御影の十八人目までは世尊寺行尹(二八六〜三五〇)の筆、残る二人の天皇御影と撰関・大臣影は尊円親王(二九八〜三五〇)の筆という。

平安時代の末、後白河法皇の女御建春門院(平滋子)の御願によって創建された最勝光院御所の障子絵に描かれた御幸や行啓の描写において、供奉の公家衆の面貌がそれぞれ的人物に似せて描かれた。この障子絵全体は宮廷絵師の常盤光長が担当したにも関わらず、その面貌だけを藤原隆信に描かせ、人物描写における隆信の画技が写実性に富む極めて特異なものであったことを示している。こうした肖像画は、隆信筆の伝承をもつ神護寺所蔵「伝源頼朝像」等に代表されるように、後白河院、隆信の時代から似絵として盛んに描かれるようになり、隆信に続く信実以下、その家系の絵師が似絵の技法を家業として継承した。本作品の絵師とされる為信、豪信もその中の絵師であり、為信は繊細な筆遣いを見せるが豪信は粗さが目立つなど、描法継承の中での変化も窺える。



順徳天皇

土御門天皇

後鳥羽天皇

高倉天皇



二条天皇

後白河天皇

崇徳天皇

鳥羽天皇



伏見天皇

後宇多天皇

龜山天皇

後深草天皇



後嵯峨天皇

四条天皇

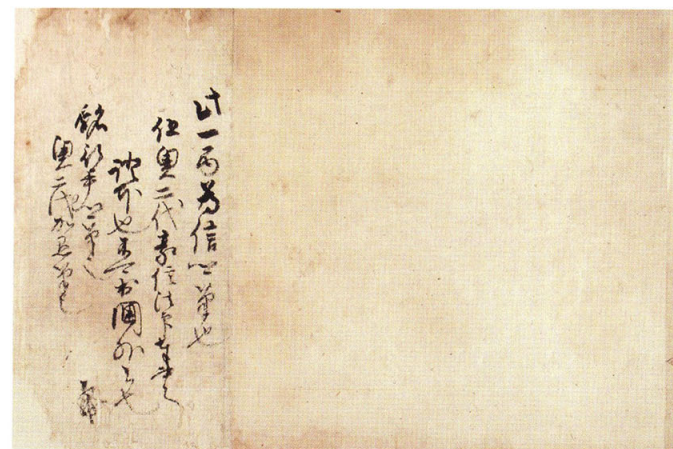
後堀河天皇

守貞親王



後光嚴天皇

付属卷



後醍醐天皇

花園天皇

後二条天皇

後伏見天皇



近衛家実

九条良経

九条兼実

藤原師家



藤原基通

藤原基房

藤原基実

藤原忠通



鷹司基忠

近衛基平

鷹司兼平

一条実経



二条良実

近衛兼経

九条教実

九条道家



九条師教

二条兼基

鷹司兼忠

九条忠教



近衛家基

二条師忠

一条家経

九条忠家



鷹司冬教

九条房実



一条内経

二条道平

近衛家平

鷹司冬平



藤原伊通

藤原宗輔

藤原実能

源雅定

藤原実行



藤原頼長

藤原宗忠

源有仁

藤原家忠

〔大臣影〕



平宗盛

平重盛

藤原師長

源雅通

藤原忠雅



平清盛

藤原経宗

藤原宗能

藤原公能

藤原公教



藤原実宗 藤原隆忠 源通親 大炊御門頼実 藤原忠親



藤原兼房 藤原兼雅 藤原実房 藤原良通 藤原実定



西園寺公経 久我通光 近衛家通 源実朝 三条公房



坊門信清 徳大寺公継 九条良輔 近衛道経 花山院忠経



堀川具実 徳大寺実基 衣笠家良 大炊御門家嗣 三条実親



藤原基家 土御門定通 西園寺実氏 九条良平 大炊御門師経



花山院師繼

中院通成

花山院通雅

大炊御門冬忠

三条公親



山階実雄

西園寺公基

西園寺公相

花山院定雅

二条道良



西園寺公衡

三条実重

徳大寺公孝

土御門定実



洞院公守

大炊御門信嗣

西園寺実兼

堀川基具

久我通基



中院通重

六条有房

花山院家定

三条公茂

西園寺公顯



洞院実泰

堀川具守

近衛経平

一条内実



今出川兼季

大炊御門冬氏

花山院師信

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鎌倉期の宸筆と名筆——皇室の文庫から

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 60

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年十一月二十三日発行

© 2012, The Archives and Mausolea Department

The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan  
Imperial Household Agency